

令和6年9月6日

愛南町議会

議長 佐々木 史仁 殿

総務文教常任委員会

委員長 石川 秀夫

所管事務調査報告書

総務文教常任委員会の所管事務の調査を実施したので、愛南町議会会議規則第76条の規定により、その結果を下記のとおり報告いたします。

記

《第1回》

- 1 日時 令和6年5月8日(水) 午前10時00分から
- 2 開催場所 議員協議会室
- 3 出席委員(7名)
石川秀夫、池田栄次、金繁典子、佐々木史仁、中野光博、那須芳人、吉村直城
- 4 調査事項
DXの促進について調査研究
- 5 説明員の職及び氏名
総務課 課長 立花慶司、同補佐 本多大輔、同主査 加藤謙太郎
- 6 調査内容
総務課から愛南町のDXの取組について資料提供と説明を受け、現状と課題について調査した。

《第2回》

- 1 日時 令和6年5月17日(金) 午前10時00分から
- 2 開催場所 議員協議会室
- 3 出席委員(7名)

石川秀夫、池田栄次、金繁典子、佐々木史仁、中野光博、那須芳人、吉村直城

4 調査事項

D Xの促進について調査研究

5 調査内容

期間内に結論が出せないため、継続審査とすることに決定した。

《第3回》

1 日時 令和6年6月14日(金) 午後0時45分から

2 開催場所 議員協議会室

3 出席委員(7名)

石川秀夫、池田栄次、金繁典子、佐々木史仁、中野光博、那須芳人、吉村直城

4 調査事項

D Xの促進について調査研究

5 調査内容

高知県黒潮町に先進地視察に行くことに決定した。

《第4回》

1 日時 令和6年7月24日(水) 午後1時30分から

2 視察地

高知県幡多郡黒潮町

3 出席委員(6名)

石川秀夫、池田栄次、金繁典子、佐々木史仁、中野光博、吉村直城

4 欠席委員 那須芳人

5 調査事項

D Xの促進について調査研究

6 黒潮町の出席者の職及び氏名

町長 松本敏郎、議長 中島一郎

企画調整室 室長 渡邊健心、同室長補佐 中屋力信

議会事務局 局長 小橋和彦

7 随行員の職及び氏名

総務課 主幹 上田耕平、同課長補佐 本多大輔、同主査 加藤謙太郎

議会事務局 局長 本多幸雄、同主幹 小松一恵

8 視察内容

黒潮町企画調整室の職員から黒潮町のデジタル化に関する取組みについて

説明を受け、先進事例についての認識を深めた。

《第5回》

- 1 日時 令和6年7月24日(水) 午後4時50分から
- 2 開催場所 議員協議会室
- 3 出席委員(6名)
石川秀夫、池田栄次、金繁典子、佐々木史仁、中野光博、吉村直城
- 4 欠席委員 那須芳人
- 5 調査事項
DXの促進について調査研究
- 6 調査内容
視察から帰庁後、委員会を開き、調査報告について取りまとめを行う前に、視察随行職員のヒアリングを行うことを決定した。

《第6回》

- 1 日時 令和6年7月31日(水) 午前9時00分から
- 2 開催場所 議員協議会室
- 3 出席委員(7名)
石川秀夫、池田栄次、金繁典子、佐々木史仁、中野光博、那須芳人、吉村直城
- 4 調査事項
DXの促進について調査研究
- 5 説明員の職及び氏名
総務課 主幹 上田耕平、同補佐 本多大輔、同主査 加藤謙太郎
- 6 調査内容
先進地視察随行職員のヒアリングを行い、取りまとめを行った。

調査結果報告

当委員会は、DXの促進について調査研究結果を取りまとめたので、報告する。

(1) 現状及び背景

DX(デジタルトランスフォーメーション)を推進するために愛媛県、愛南町は、現在DX推進会議を設置して取組みを行っている。

このDXは、デジタル技術(AI, ICT, RPAなど)を利用して業務

改善と町民の利便性の向上の両方を同時に実現させるものである。

愛南町では、現在、高度デジタル人材シェアリング事業、えひめ電子申請システム、L o G oチャット等に取り組んでおり、令和6年度内には、書かない窓口（申請書自動作成サービス）、コンビニでの各種証明書の交付を実施する計画である。

しかしながら、専任でD Xを推進する体制では無いため、電算管理の守りの部門とD Xを活用し業務改革と住民サービスの向上を推進する攻めの部門を同じ担当が兼務しているため、推進力が弱く現場課題をボトムアップして解消につなげる事が困難な体制となっている。

特に、担当者が、愛媛県が開催する会議や委託先事業者との打合せ等に月の4分の1の時間を取られている現状では、システムありきの事業になりかねず、住民本位ではない。

(2) まとめ

黒潮町では、デジタル化は「デジタル技術を活用して、組織・業務の効率化・省力化を行うこと」であり、「業務本位」の「改善」と定義し、D Xは「デジタル技術を活用して、新たな価値を見出したり、仕組みを変えたりしてこれまでにない住民サービスを提供すること」であり、「住民本位・住民起点」の「改善」と定義しており、デジタル化とD Xでは前提が違うということを確認して、職員の理解を深めながら組織体制も分割して取組みを進めている。

各部署の若手をD X担当として、月に1回職員教育を行い、現場の課題を汲み上げ、ボトムアップで身近な業務改善と意識改革につなげる取組みは、参考となるものである。

愛南町においても、システムありきでなく、愛南町独自のD X推進会議の設置や推進体制の整備を進め、現場の課題解決や住民サービスの向上を目指す必要がある。

愛南町がD Xを推進するうえで下記2点を提案する。

- 1 デジタル化情報管理部門とD X推進部門の定義を明確にし、部門を分割してD Xを推進できる体制整備をすること。
- 2 D X推進部門が推進計画を策定し、定期的な推進会議の開催、各部門の課題を共有し、D Xを活用して住民目線の業務改革に取り組むこと。

以上、総務文教常任委員会の意見を集約した調査結果報告とする。